

平成 29 年度 事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 まごころ

1 事業の成果

① 放課後等デイサービス事業（放課後等デイサービス）

・全般

全般的にサービスの質の向上や職員の能力向上への取り組みができたが、職員の退職などによる提供体制の低下が課題となっている。

・まごころ千曲

スタッフ間の情報共有などについて改善の取り組みを実施することができ、スタッフ間の支援方法の統一を進めることができたが、個別支援計画の更新などについて課題が見られた。

・まごころキャンパス

放課後等デイサービスガイドラインに基づいたサービス内容の改善は実施できたが、緊急時対応マニュアルやクラブ活動等については今後の課題となっている。

② 訪問介護事業・居宅介護等事業（ホームヘルプサービス）

サービス提供責任者の退職により、後任の職員が業務を取り行えるよう進めていたところではあったが、後任の職員も年度半ばで退職したため、業務提供体制の立て直しについてはできなかった。

また、行動援護の提供を開始でき、移動支援からの移行をすることができた。

③ 地域生活支援事業（移動支援）

一部の手厚い支援を必要とする利用者について、行動援護や重度訪問介護への移行を行ったため、サービス提供量は減少した。地域におけるニーズは少なからずあるものの、他の障害福祉サービスと比べ時間数単価が少ないこともあり、十分な職員の確保が難しい状況にある。

④ タイムケア事業（レスパイトサービス）

タイムケアには放課後等デイサービスの補助としての位置づけとし、放課後等デイサービスの営業時間外の提供とすることができている。

⑤ 相談支援事業（障害者相談支援及びサービス等利用計画の作成）

千曲市障害者基幹相談支援センターの事業委託を受けることで、地域における障害者を取り巻く課題解決に貢献できたが、事業所内における対応能力に不足が生じている。12月に職員を増員できたものの、研修が未受講であることなどにより、計画相談の質の低下が生じてしまっている。

⑥ 外出支援事業及び宿泊訓練事業（社会参加事業）・地域交流行事（余暇支援）

常勤職員の退職が増加している影響から、宿泊訓練事業および地域交流行事は実施できない状況であり、外出支援事業についても回数を減らして実施することとなった。

⑦ 介護職員養成研修事業・日常生活支援事業

長野大学の端田准教授に依頼し、事業所内学習会を計4回実施した。

日常生活支援事業についてはホームヘルプ担当職員の退職により当面の実施ができないと判断された。

⑧ その他

社会福祉法人化について検討がなされ、現在の収益を維持しつつ6年～7年先の社会福祉法人化を目指すことが確認された。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
放課後等デイサービス事業	放課後等デイサービス	通期	事業所内	10名/日	障害児13名 (1日平均)	34,355
訪問介護事業	ホームヘルプサービス	通期	高齢者宅	3名/日 (常勤換算)	高齢者1名 (実人数・月平均)	470
居宅介護等事業	ホームヘルプサービス	通期	障害児者宅	3名/日 (常勤換算)	障害児者16.5名 (実人数・月平均)	9,006
地域生活支援事業	移動支援事業	通期	事業所内及びその近辺	2名/日	障害児者12名 (実人数・月平均)	4,846
タイムケア事業	タイムケア(レスパイト)サービス	通期	事業所内	1名/日	障害児者24.2名 (実人数・月平均)	890
相談支援事業	障害者相談/サービス等利用計画の作成 障害者基幹相談支援センター業務受託	通期	事業所内 千曲市役所	2名/日	障害者(児)・家族6.4名 (実人数・月平均)	5,854
社会参加促進事業	外出支援事業 宿泊訓練事業	年10回	千曲市及びその周辺	4名/回	障害児者・家族5.2名/回	移動支援事業に繰入
介護職員養成研修事業	勉強会等の開催	年4回	事業所内	1名/回	事業所職員10名(平均)	0
日常生活支援事業	生活支援事業 (通常のヘルパー業務以外の手伝い等) (サービス内容の検討)	通期	事業所内	0名/回	高齢者・障害児者0名	0

(2) その他の事業

平成29年度における実施なし